



災害時の要支援者対策の 点検・見直しを！

議会改革ネットワーク ● 植中 みやこ 議員

問 熊本地方を中心とする大地震では、介護の必要な高齢者や障がいのある人たちが、必要な支援を受けられない状況でした。大災害の教訓を生かして、具体的な防災・減災対策の点検・見直しの考えは。なかでも、支援が必要な人や家族が、日常生活の把握や必要物の備え、人的サービスの確認、近隣との関係づくりなどの自助意識の向上から、個別の支援計画に反映し、地域の共助・公助につなぐ啓発が必要と考



「自分でつくる災害対策チェックシート」絵シールをはっていくので、子どもからお年寄りまで、だれでも作れます。

えます。また、福祉避難所の周知や、受け入れを依頼できる市外・県外福祉施設とのネットワークも必要では。防災訓練には、要支援者対応も入れてください。

答 現在、熊本被災地支援に派遣している職員に、教訓となるような情報の収集を指示しています。行政をはじめ、支援の主体も被災者となったケースに備え、広域的な協力体制を確保し、市民の防災意識を高める職員を育成していきま

児童保育所の整備充実

問 指導員の人員費を
対象とした補助は平成
28年度も継続します。子
どもの生活の連続性が大
切なことから日常的な学
校との情報共有を進めて
いきます。

市民の声を生かした庁舎建設に



日本共産党湖南省議員団 ● 立入 善治 議員

東庁舎、西庁舎の整備計画の今後について

問 湖南省庁舎整備検討委員会の役割、市民の声、職員の意見をどのように取り入れていくのか。

答 東庁舎と周辺施設も含め検討していただき、職員は、課長級以上で検討委員会を設けます。議会からも特別委員会を作り、意見をいただきます。

問 東庁舎整備では、すべての機能を集約するとされているのか。

答 現在のところ、東庁舎の周辺施設をはじめ、教育委員会事務局、保健センター、図書館の機能などを含めた複合施設として考えています。

問 西庁舎の整備計画の今後の対応について。

答 基本構想で現状と課題を分析。東庁舎より1年早い昭和52年度の建設なので、並行して検討します。

石部頭首工の洪水時の放流について

問 野洲川土地改良区の賦課金の推移と農地の変動との整合性について。石部頭首工の増水時の放流規定について。

答 開発などによる農地転用が進むことにより、バランスが崩れてくるため節減努力を改良区にしていきたいです。今後は賦課金の値上げも予想されます。石部頭首工の管理については守山、野洲、栗東の3市が管理を適正にするため、管理者を配置しています。

落合橋の架け替えは早急に

問 落合橋の架け替えの時期について。

答 現在、予備設計ならびに土質調査済みです。県の河川整備計画でもAランクに位置づけられています。詳細設計を順次実施し、早急に事業着手に向けて進めたいと考えています。